

ふるさと  
資料紹介

= ⑤7 =

史料と地名からみた  
地区の歴史⑫

山之上(四)

山之上町中之番、保育所の南約200mに半分に折れた石碑があります。「南無阿弥陀佛」「天保寅播隆」と文字が刻まれています。この独特な字体は江戸時代後期の僧・播隆ばんりゅうのもの。干支えとから天保元年(一八三〇年)の建立であることが分かります。

越中出身の浄土宗の僧で、槍ヶ岳を開山したことで有名

な播隆は、布教などでこの地域に関わりが深く、今でも牧野では播隆の軸を掛けて念仏講が続いています。

加茂郡周辺には「南無阿弥陀佛」と刻まれた石碑(名号碑)が数多く建てられており、市内でも五基が確認されています。中之番の碑は、その中で最も古いものです。



播隆は天保十一年、脇本陣林家住宅で没したとされています。脇本陣にはその二年前、天保九年(一八三八年)に書かれた「播隆由緒書」という古文書が残されています。それには年齢「五拾三才」と記されており、出生年について不明な点の多かった播隆を知る一つの手掛かりとなります。

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内/市内四〇八)まで情報をお寄せください。